

八幡浜市内で最初に街区形成が始まったと思われる本町にあり、八幡神社の西側に位置する。周辺は戦前期の建物が散見される歴史環境でもあり、まず通

Vol.104

坂本歯科医院の建築的魅力と文化の香り（八幡浜市）

岡崎 直司

タウンツーリズム講座主宰・近代化遺産活用アドバイザー



坂本歯科(左)・清家貴金属店(右)

りを挟み東側には八幡浜教会（昭和初期）、その裏手には高田左官の看板建築（洗い出し装飾）、教会向かい側には煉瓦蔵のある西村邸、西に100mほど進むと浜ノ町に菊池清治邸（明治6年築）と若松旗店（創業203年）が姿を見せる。

また、市文化センターや市立図書館にもほど近い。間もなく、旧図書館（松村正恒作品）の移設保存による市の活用計画もスタートする。

【文化的価値】

坂本歯科の建物は、木造総二階建ての二世帯住宅で、かつては南半分（写真左側）が坂本歯科、北半分は清家貴金属店が営まれ、従って入口が二ヶ所設けられているのはその為である。

八幡浜は、宇和島藩最北の主要港として江戸中期より徐々に発展し、狭小なりアス海岸を埋立てつつ主として商業地区としての街区形成を拡大させて来た。特に幕末から近代にかけては、菊池家、野

本家等の藩御用商人を中心に、本町はその中心として栄えた。元々で言えば、藩内有数の庄屋であった浅井家の敷地がその後の八幡浜町役場、後に市役所となり、やがて市民会館、現在の市文化センターへと変遷を遂げる。



坂本歯科看板

そうした中で、明治中期以降から昭和前期にかけて、紡績業や製糸業が台頭し、その商港としての発展により「伊予の大阪」と称されるようになる。同様に呉服業を中心に商店街も充実し、本町界隈には大店（おおたな）（大黒屋野本家、油屋菊池家、近江屋菊池家等々）が軒を競う地区となる。

一方、土地狭小な地域特性もあって、一戸建ての住宅地確保が難しい点で長屋形式の借家棟が増加し、この坂本歯科の建築スタイルも、そうした類型に入ると思われる。明確な建築記録が判明しないが、その様式から見て大正から昭和初期の築年かと想定される。現在の建物は、前述の二世帯住宅の型式であるが、以前は西隣にも棟続きの建物があり（現在は別所有で分離改築されている）、一方北隣の建物（山本家）も棟続きであり、元々は全体として中庭を有する回廊状の型式であることが、二階ベランダからは

見てとれる。八幡浜は、戦前期に市制を敷いた5都市（他に松山、宇和島、今治、新居浜）で唯一空襲による戦災を免れた事もある。そうした長屋的な多世帯住宅がまだ多く残存している。坂本歯科の建築的な価値は、そうした庶民生活としての当時の借家スタイルを伝えるスタンダードな佇まいにあると思われる。

【坂本家の物語り】

戦後間もなくの頃に姉夫婦が住む清家高治家に同居？する形で、歯科医院を再開した坂本シノブ（坂本家四女）氏が、三姉妹（他に五女智、六女順）で住み込む。実は、戦時中に近く（今の図書館辺り）で坂本歯科を既に営んでいたが、市役所近くであったため昭和20年の終戦直前に建物疎開（※）で解体され、戦後改めての再開でもあった。特徴的な坂本歯科の看板は、姉シノブの開業再開のために弟榮太郎が心を込めて宇和松に彫った作品で、書体は篆書（てんしよ）をベースにアレンジし、氏の芸術センスが良く表れている。その後歯科医院は多くが通院する人気の歯科となり、やがて三姉妹は昭和50年頃に市内広瀬に新築し、職住

分離の形で女医シノブは通いとなる。当時、歯科によく通院していたという方の話によれば、診察室にはいつも楚々とした一輪挿しが置かれ、その季節毎の花の活け方がとても素敵だった事を今も思い出すとの事。三姉妹共に、陶芸や茶道、たまの美術館通いなど、それぞれが文化的な嗜（たしな）みを樂しむ生活をされていたようである。

その広瀬の敷地には、大洲市渡場在住であった榮太郎も大洲市教委を退職後アトリエを建て、永年希求していたブロンズによる具象作品の製作に没頭する。現在、氏の新珠（あらたま）の作品群50点／22（5／14）には文化センターで没後16年にして初個展が開催された。市内には、松蔭小学校の創立70周年記念碑に氏のレリーフ「朴の花」があり、野外で観られる唯一のブロンズ作品となっている。（※氏の作品については、このシリーズVOL・99参照）

また、その榮太郎氏が愛したのがアトリエに置いていた年代物のビクター蓄音機（1923年製）。壊れて久しく聴くことが出来なかったが、不思議な人の縁で一昨年奇跡的に修復された。今は、

SP盤の味のあるその音が、手回し操作で聴く事が出来る、それもこの建物の魅力の一つである。



坂本家の人々（左端が四女シノブ、右端が榮太郎、後列に清家高治静枝夫妻）



蓄音機を操作する修復に功績の仙波先生

※建物疎開とは、空襲により主要建物（官公庁等）が類焼しないよう、その周辺建物を強制的に解体撤去し空き地を作る政策のこと。